

2024年度 事業報告書

自 2024年4月1日
至 2025年3月31日

2025年6月30日

一般財団法人 **日本食品検査**

2024 年度 事業報告

1 事業活動

次の事項を重点的に実施した。

- (1) 品質保証体制（J F I C－Q A、Q A i、Q A c）の推進を図り、「正確な試験」と「信頼される検査」を行うことで社会に貢献した。
- (2) 本部、首都圏事業所および各拠点の連携を強化することにより、迅速なサービス、総合力を生かした顧客対応を推進した。
- (3) 検査・試験における高い技術力を活かして国が進める HACCP の制度化、輸出促進事業に貢献した。
- (4) 食品関連企業の検査施設を対象として、試験技術、教育訓練および精度管理を組み合わせた総合的な技術サービスを提供した。

2 事業別概要

(1) 検査事業

1) 輸出検査事業

「農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律」（令和元年法律第 57 号）に基づき、オーストラリア向けの衛生証明書を発行した。ロシア、ウクライナ向けについては衛生証明書の発行はなかった。

2) 冷凍食品検査事業

一般社団法人日本冷凍食品協会の委託を受け、冷凍食品認定制度に基づく冷凍食品の品質・衛生管理に係る定期検査（国内）を 574 件（海外工場 10 件）、製品検査（国内）を 628 件、認定・更新調査（国内）を 54 件実施した。

本年度のオプション支援の実施件数は、微生物検査指導は 20 件、官能検査指導は 68 件、拭取り検査指導他は 30 件となり、年間 118 件実施した。

また、品質管理に関する講習会と、品質管理責任者講習会を実施して人材育成支援も実施した。

3) 衛生管理検査事業

食品の製造・流通・販売業者から依頼を受け、市場に流通している商品や原材料の細菌検査・理化学試験・品位検査を実施した。また、各社がプライベート商品などを委託している製造工場の安全性（法令遵守・リスク対策・フードディフェンスなど）について調査・監査を実施した。

外食産業や商業施設などの店舗・テナントなどの衛生状況の点検、施設・設備・従業員の手指などのふき取り検査、仕掛品・製品の細菌検査を実施した。

依頼者の検査ニーズに応えるため、職員向け研修会の実施に加え、現場での力量評価および OJT を定期的実施して検査員の力量向上に努めた。

4) 検査企画事業

食品関連事業者の品質保証体制の整備を推進するため、国内の食品工場における対米 HACCP の継続審査・導入支援等及び対 EUHACCP の定期監視・導入支援等の業務を積極的に対応した。その結果、受注数の増加及び料金改定により大幅な収入増となった。

5) 研修事業

オープンセミナーは、開催回数を減らしたが、料金改定により収入及び受講者数はやや増加した。顧客依頼のクローズセミナーは、依頼企業の変化はあるものの昨年並みの依頼数を受注した。

細菌検査技能評価試験は 4 菌種版の受注が拡大した。また、官能検査技能評価試験の検液販売では大口の受注が拡大した。

6) 輸入食品検査事業

食品衛生法登録検査機関として同法第 26 条第 3 項に定められた製品検査（命令検査）および自主検査を輸入業者からの依頼により実施した。

製品検査（命令検査）は残留農薬、貝毒、動物用医薬品等の依頼が増加した。

自主検査は遺伝子組換え、食品中の食品添加物試験等が増加した。残留農薬は、メピコートクロリドが製品検査に移行したため減少した。

また、検疫所からのモニタリングアウトソーシングについては食品添加物規格試験、残留農薬、動物用医薬品等を受託した。

7) 一般依頼試験事業

食品の製造・流通事業者および関係団体等からの依頼を受け、食品の品質および安全性に関する試験を実施した。機能性成分試験の依頼は昨年同等に受託し、さらにビタミン、アミノ酸、ミネラル等の大口依頼を受託した。

(2) 委託事業

入札情報速報サービス（NJSS）を活用して、各省庁の入札案件情報を収集し、積極的に応札した結果、「EU 向け二枚貝生産海域モニタリング調査」、「EU 向け二枚貝生産海域指定にかかるデータ収集」、「健康な愛玩動物由来の薬剤耐性モニタリング調査事業」、「疾病に罹患した愛玩動物由来の薬剤耐性モニタリング事業」、「と畜場等における薬剤耐性モニタリング」「とうもろこし子実のカビ毒に関する管理手法の検討」、「麻痺性貝毒検査における標準物質製造技術の開発」について農林水産省より委託を受け、年度内に滞りなく完了した。

さらに、新規に PFAS（ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物）試験を立ち上げ、国産農畜水産物中の PFAS 調査及び追加調査を農林水産省より受託、完了した。

また、地方公共団体等への入札参加資格を整備し、貝毒及び畜水産用医薬品、学校給食用食材の安全性に関する試験及び調査を受託し、年度内に完了した。

3 協議会開催

(一社)日本冷凍食品協会と共催で地区会員協議会(東北地区、近畿・中国・四国地区、九州・山口地区)を開催した。

輸入冷凍野菜品質安全協議会(凍菜協)の事務局として、総会、定例会、日中冷凍野菜品質安全会議(中国)、日台冷凍農産品貿易懇談会を開催した。

また、運営委員会、海外交流委員会、品質情報委員会、マニュアル委員会、判定委員会の活動支援を行った。

4 品質保証

試験及び検査事業等に係る品質保証の充実、推進を図った。

- (1) JFIC-QA(試験の品質保証規程)に関係する規定等について見直し改訂を行った。
- (2) 健康増進法に基づく登録試験機関の登録の更新を受けた。
- (3) 全所で下記の精度管理プログラムへ参加し試験技術及び精度の向上を図った。
 - 1) (一財)食品薬品安全センター主催の食品衛生外部精度管理調査等
 - 2) FERA Science Ltd 主催の食品化学分析等の技能試験 FAPAS®
 - 3) 公益社団法人 日本分析センター主催の放射能測定技能試験
- (4) 12月に全所の信頼性確保部門指定者等を対象に内部監査などのスキルアップ研修を実施した。また全所の品質保証担当者と Web 会議を開催し、課題解決や情報の共有を行った。
- (5) ISO/IEC17025 に基づく認定施設の拡大を行った。